

基盤研究～芸術系大学における海外交流展の企画・運営・実施・
ファイリングを用いた実践的な学びの場の創出～

BASIC RESEARCH FOR CREATING AN EDUCATIONAL PLATFORM FOR PRACTICAL LEARNING EMPLOYING THE
PLANNING, MANAGEMENT, EXECUTION AND FILING PERTAINING TO INTERNATIONAL EXCHANGE EXHIBITIONS

.....
中山 玲佳 芸術工学部アート・クラフト学科 助教
さくま はな 芸術工学部アート・クラフト学科 准教授
谷口 文保 芸術工学部アート・クラフト学科 准教授

Reika NAKAYAMA Department of Arts and Crafts, School of Arts and Design, Assistant Professor
Hana SAKUMA Department of Arts and Crafts, School of Arts and Design, Associate Professor
Fumiyasu TANIGUCHI Department of Arts and Crafts, School of Arts and Design, Associate Professor
.....

要旨

このプロジェクトは、芸術系学生を対象とした人材育成プログラムの構築に向けての基盤研究として 2017 年度に実施した。研究協力者にメキシコのベラクルス州立大学造形美術研究所の矢作隆一研究員を迎え、海外交流展の企画・作品制作・展示・記録集作成などのプロセスを「学びの場」と捉え、授業などでの実践を通してその可能性と課題を検証した。実施内容としては、神戸芸術工科大学の学生が制作した作品をベラクルス州立大学造形美術研究所ギャラリーで展示し、同研究所の研究員が制作した作品を神戸芸術工科大学ギャラリーで展示、日墨活動の報告、その他関連イベントも合わせて行った。また、アンケートや現地調査を行い、芸術系学生の教育や海外交流展企画などの参考資料となるように、活動の全行程を記録集にまとめた。

Summary

This project was conducted from 2017 annual as part of a basic research for building a human resource training program for art students. With research cooperation from researcher Ryuichi Yahagi at Universidad Veracruzana Instituto de Artes Plasticas, this project examined through practice the possibilities of overseas exchange exhibitions and their issues by regarding their processes, such as planning, producing exhibits, installing, and compiling records, as learning opportunities. The project involved exchange exhibiting works produced by Kobe Design University students and Instituto de Artes Plasticas researchers at both gallery, and was held Japan-Mexico related event and activity report. The project also compiled a record of all of its processes to serve as reference material for educating art students and for planning future overseas exchange exhibitions.

1. 研究目的

本研究は、芸術系大学における「海外交流展の企画・運営・実施・ファイリングを用いた実践的な学びの場の創出」する為の基盤研究である。本研究では、アート・クラフト学科美術領域教員がこれまで蓄積してきた国内外での実践的研究や制作活動を基に、教育の一環として海外交流展を開催した。また、その展覧会の準備から開催後のアンケート調査までの企画運営のノウハウを、教育ツールとして活用できるようにするため記録集にまとめた。

本研究では、「技術習得」「制作」「展示」「発表」「海外からの作品受け入れ」「大学内展示」「イベント開催」「ファイリング」を教員と学生が協力して行う中で、アートによる海外交流やグローバルなものを見方を養い、異なる文化への理解を深めるとともに、海外において作品の評価などを直接受けることで、学生自身の作家性の自覚を養う。また、学部1年次から「技術習得」「制作」「展示」「発表」という作品制作の流れを意識付けし、さらに、展覧会の「企画」「運営」「記録」などのノウハウを習得する。こうした経験を積むことで、在学中から自主的に活動できるように指導していくということも狙いであった。学生の自主性を高め、気づきや成長の実現を目指した。また同時に活動の様子を保存し継続させることが、今後の美術教育を考えるうえでの大事な資料となり得ると考える。

2. 研究活動の概要

本研究は4つの活動で構成されている。①メキシコにおける神戸芸術工科大学の展覧会の開催、②本学におけるメキシコ人芸術家の展覧会および日墨交流報告会の開催、③本学におけるベラクルス州立大学の展覧会の開催、④記録集の出版。

活動スケジュール(番号①②③④は上記に準ずる。)

2017年3月

交流展承諾書をベラクルス州立大学造形美術研究所から受け取る。

5月～7月

①アート・クラフト学科ドローイング授業にてメキシコ文化、海外交流展ガイダンス・学外実習を行った後作品制作。

8月

①学生作品完成、総評。梱包作業。ベラクルス側の矢作氏と連携し、現地設営に向けて調整、イベント準備。教員作品各自準備。

④学生作品撮影、記録。

9月1日～9日

①中山、さくま渡墨。ベラクルスにて展覧会の搬入作業、オープニング、関連イベント実施。

③現地滞在中に矢作氏と本学でのベラクルス州立大学側の展覧会開催について打ち合わせ。

④展覧会およびイベントの撮影、記録。

11月

②本学におけるメキシコ人芸術家の展覧会および日墨交流報告会の開催。

④撮影、記録。

12月

③本学にて「ベラクルス州立大学造形美術研究所40周年記念特別展」開催。

④撮影、記録。

12月～2018年2月

④アンケート調査実施。記録集編集作業開始、画像選定、構成確定後、執筆。

3月

④記録集完成。

3. 研究内容

3-1. MERCADO-市場 神戸芸術工科大学アート・クラフト学科学生作品展に向けて作品制作。

先ず、2017年3月に谷口がベラクルス州立大学造形美術研究所を訪問した。同研究所研究員の矢作氏の協力で、同研究所所長のハビエル・コサル氏に同研究所における神戸芸術工科大学の展覧会の開催について提案し、了承を得た。そして、同年9月の展覧会開催に向けて招待状を発行していただいた。

5月から7月にかけてアート・クラフト学科開設授業「ドローイング」(担当教員:中山、さくま)において、海外交流展についてのガイダンスを行い、合わせてメキシコ文化についてのレクチャーも行った。そして、交流展についてのディスカッションを行い、メキシコでの展覧会テーマを「市場」に決定した。地域の生活を支える市場は、その国の独自の文化を垣間見ることができるのではないかということから、日本の生活文化の特色を浮かび上がらせることを狙いとした。

次に、6月16日に学外実習として、受講学生全員が大学近隣の市場「湊川商店街」を訪問し、作品のモチーフを探すための調査を行った。受講学生32名(全員、アート・クラフト学科1年生)とアート・クラフト学科有志学生11名が、市場というテーマに沿って各自が選んだモチーフをもとに紙版画を1人2点制作した(図1~3)。

そして、7月28日に作品総評を行い、同時に、展覧会企画書の作成についてのレクチャーを行った(図4、5)。



図1) 交流展ガイダンス



図2) 市場調査

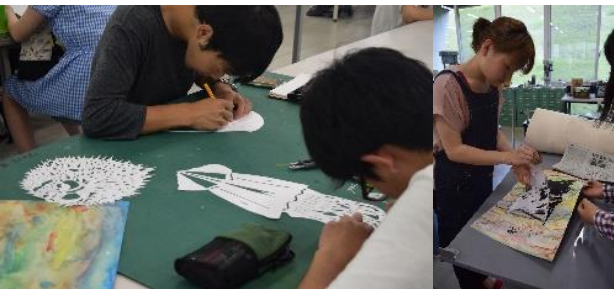


図3) ドローイング授業での作品制作



図4) まとめ



図5) 総評

3-2. MERCADO-市場 神戸芸術工科大学アート・クラフト学科学生作品展開催

題名: MERCADO-市場 神戸芸術工科大学アート・クラフト学科学生作品展

担当: 中山、さくま

出品者: アート・クラフト学科学生 43名

中山、さくま

会期: 2017年9月7日~2017年10月4日

場所: メキシコベラクルス州立大学造形美術研究所

Fernando Vilchis Gallery

学生作品約80点と教員作品(中山、さくま)は、中山とさくまが手持ちでメキシコに搬入した。ベラクルス州立大学造形美術研究所では、最初に研究協力者である矢作氏の工房を訪問し、展示会場を確認した。そして、同研究所メンバーとのミーティングを経て、展示作業を行った。また、展覧会の広報活動として、同研究所メンバーの協力を得て、ポスターやDMを制作した。ベラクルス州立大学が運営するラジオにも出演し、展覧会の紹介を行った。

9月7日に、「MERCADO-市場 神戸芸術工科大学アート・クラフト学科学生作品展」が開幕した。オープニングでは、ベラクルス州立大学関係者とハビエル所長にご挨拶をいただいた。約50名の入場者があり盛大なオープニングとなった。また合わせて、木版画のワークショップも行った(図6~12)。



図6) 展示作業



図7) ラジオ出演



図8) ポスター制作



図9) オープニング



図 10) 木版画ワークショップ



図 11) 展覧会フライヤー



図 12) 展示風景

3-3. 神戸芸術工科大学 日墨交流展

PREFABRICATED および日墨交流活動の報告会

題名：神戸芸術工科大学 日墨交流展

PREFABRICATED

会期：2017年11月9日～2017年11月24日

担当：谷口

出品者：Ingrid Elizabeth Martínez Buendía

Miguel Angel Chavira Salas

場所：神戸芸術工科大学エスパス KDU ギャラリー

11月にメキシコ人アーティスト Ingrid Elizabeth Martínez Buendía 氏と Miguel Angel Chavira Salas 氏が来学し、両名の写真作品を中心にした展覧会を開催した。

11月9日には、展覧会のオープニングに合わせて、ギャラリートークと日墨交流活動報告会を行った。当日は14:40から、会場で Ingrid 氏と Miguel 氏によるギャラリートークを実施した。両名とも、自己紹介や作品のコンセプトについてスペイン語で説明した。通訳は、本学大学院生の Martínez Angeles Yarased del Carmen 氏が担当した。大学院生やアート・クラフト学科学生約30名が参加し、真剣なまなざしで作品

解説に耳を傾けた(図13)。



図 13) 日墨交流展「PREFABRICATED」オープニング

続けて、本学教員が関わった日墨交流活動の報告会を行った。まず、さくまと中山が、ベラクルス州立大学において開催された「MERCADO-市場 神戸芸術工科大学アート・クラフト学科学生作品展」に関する活動報告を行った。展覧会の搬入、展示、オープニングの様子、造形美術研究所研究員との交流などについて報告した。また、同研究所所長ハビエル氏のインタビュー映像「現地メキシコでのアートの重要性やアーティストの活動及び研究所の在り方について」(日本語字幕付き)を放映した(図14)。



図 14) 「MERCADO-市場」展活動報告

次に、谷口が「メキシコのコラボ・ショー」、 「ファン・エスクッティア小学校でのワークショップ」の活動報告を行った。これらの活動は、2015年8月から同年10月にかけて谷口がベラクルス州立大学造形美術研究所客員教授としてメキシコに滞在した期間中に実施された。報告では、同大学の学生や近隣住民と交流を深めながら実施したプロジェクトの様子や、近隣小学校で行ったワークショップの内容について詳しく説明を行った(図15)。

最後に、まんが表現学科の坪井美和実習助手が、メキシコ在住の日本人考古学者と連携して2016年に実

施したまんが制作について報告を行った。「トラジヨコルティア」と題するまんがは、メキシコの考古学調査の意義や成果を、遺跡周辺の住民や子供たちに伝えるために作成されたものである。報告では、まんが制作のために現地調査に出かけたことやまんが化のための工夫、現地で行ったワークショップでのエピソードなどについて説明があった(図16)。



図15) コラボショール活動報告



図16) まんがプロジェクト報告

3-4. ベラクルス州立大学造形美術研究所 40周年記念特別展開催

題名：ベラクルス州立大学造形美術研究所 40周年記念特別展

担当：中山、さくま

出品者：ベラクルス州立大学造形美術研究所
研究員 12名

Vinicio Reyes, Yosi Anaya, Roberto Rodríguez, Marco Antonio Garcia, Natalia Calderón, José Manuel Morelos, Abraham Méndez, Xavier Cózar, Gerardo Vargas, Sergio Domínguez Aguilar, Beatriz Sánchez, Ryuichi Yahagi

参加者：アート・クラフト学科学生 40名

会期：2017年12月14日～2017年12月20日

場所：神戸芸術工科大学エスパース KDU ギャラリー

ー

12月14日から、「メキシコベラクルス州立大学造形美術研究所 40周年記念特別展」を本学エスパース KDU ギャラリーで開催した。同研究所研究員 12名の作品は、すべて平面作品で版画やドローイング作品であった。これらの作品は、メキシコで展示した本学学生の作品と一緒にメキシコから郵送(DHL)され、10月中旬に大学に到着した。展覧会は、中山、さくま、有志学生約10名が取り組み、額装から展示作業、運営、撤収までを行った(図17)。オープニングには「MERCADO-市場」展に参加したアート・クラフト学科1年生を中心に多くの学生が駆けつけ、メキシコ人作家の作品に見入っていた(図18、19)。



図17) 作品額装、展示風景

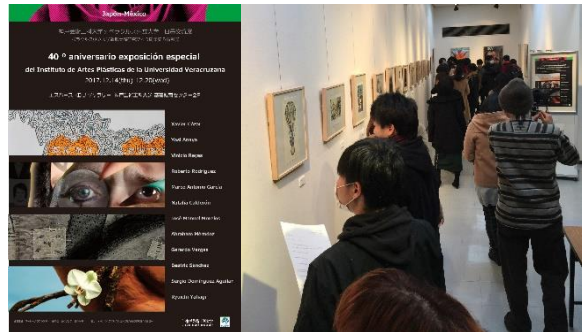


図18) 交流展ポスター、12月14日オープニング



図19) 展示風景

3-5. 日墨交流展 神戸芸術工科大学アート・クラフト
学科×ベラクルス州立大学造形美術研究所 記録集作
成

題名：日墨交流展 神戸芸術工科大学×ベラクルス
州立大学

担当：中山、さくま

サイズ：A4、26頁

発行：神戸芸術工科大学、2018年3月

部数：500部

2018年1月からアンケートまとめと、記録集の編集作業を開始し、画像選定や構成作業などを有志学生と共に行った(図20)。展示された本学学生作品、本学教員作品、ベラクルス州立大学造形美術研究所研究員作品の画像に加え、プロジェクト概要、全体スケジュール、アンケート結果、交流展についてのコメントなどをまとめた。特に、全行程を時系列順に記述した部分は、今後の芸術系大学の教育や海外交流展の企画において参考資料として活用してもらえるように詳しく記述した。記録集は、3月に完成した(図21)。



図20) 冊子編集作業



図21) 日墨交流展冊子完成

4. まとめ

メキシコベラクルス州立大学造形美術研究所と本学アート・クラフト学科との交流は、2015年夏に本プロジェクトメンバーである谷口がアートプロジェクトの実践や調査を行う目的で同研究所に滞在したのを機にスタートした。

今回、交流展覧会を軸にしながら、学生たちが作品制作、発表、展覧会運営、設営、また記録集編集まで参加することで、彼らが現場のノウハウを身につけ、自身の手により一連の活動を記録することの意義を考えるよいきっかけとなった。12月の展覧会終了後、学生に交流展を通しての感想・アンケート調査を実施し

た結果、「テーマに沿って作品作りをするなかで、普段注目することのないところまで深く観察することができ、新たな興味が湧いた。」(1年女子)という制作についての感想や、海外での展示については、「授業という形でメキシコとかかわることができてうれしい。」(1年女子)「海外の人に見られると思うといつもとは違う感覚で制作ができ、面白かった。」(1年男子)など貴重な体験ができたというのが多数あった。活動全体の印象としては、「人と人の交流の大事さを改めて学んだ。」(3年男子)や、「メキシコ人作家の作品の幅の広さに感動し、とても良い刺激になった。」

(3年男子)など、人と交わってはじめて生まれる、気づきや驚き、また前向きな姿勢が綴られた。このように、彼らが海外に目を向け芸術を通した国際交流を実感していくことも確認できた。一方では大学間の連絡調整や作品輸送、交流や教育を促進する活動など、工夫すべき課題がたくさんあることが分かった。この活動を通して、双方の教員・研究員同士の交流が深まり、新たな教育やアート実践の在り方考える機会になればという思いとあわせて、海外からの人の往来が日常化していき、今まで以上にクリエイティブな動きが活発になることを願う。

参考文献

- 1) 谷口文保、「メキシコにおけるコミュニティと共創する芸術創造に関する研究」、『神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2016」』、2016
- 2) 中山玲佳・さくまはな・谷口文保、『日墨交流展 神戸芸術工科大学×ベラクルス州立大学』、神戸芸術工科大学、2018